

令和元年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

所属部局名	観光学部	申請者氏名	木川剛志
研究プロジェクト名	オーラルヒストリー手法を用いた和歌山の戦後史研究		
当初計画に対する目標達成率	60 %	研究プロジェクトの終了時期	令和3年3月
予算配分総額	500,000 円	経費使用総額	円 (担当課で記入)

【研究プロジェクト事業の成果】※具体的に記入してください

本研究では、和歌山県内の戦後史に関わる口承記録を集め、その記録から見出される知見を研究へとつなげることを今後の大きな目的とし、前段の口承記録の収集を行おうとした。ただし、2020年度は様々な要因で研究には困難な年となった。

まず、口承記録を聴取できる調査対象者を集めた。この段階に関しては、予想以上に進んだ。その中には、これまでに、木川が調べてきた限りは見つけることができなかった、和歌山における戦災孤児の方、また混血児の方の情報を見つけることができた。ただし、インタビューを行う段階になってから、コロナ禍は広がり、調査対象者が高齢なこともあり、落ち着いてからの実施と考えているといつまでも落ち着かなかつたので、非常に限られたインタビューの数となった。

今回、十分にインタビューとして収録できたのは3本である。1人は実際に和歌山大空襲を体験され、実の姉を亡くした方であった。また、もう1人も和歌山空襲を経験された方であったが、彼の場合は家族には死傷者はいないが東和歌山駅前の空襲も経験されている方であった。3人目は由良港であった海防艦への空襲を実際に見た方であった。彼は海防艦の艦長とも交流があり、当時の出来事をよく覚えておられた。

これらのインタビューの映像は15分の映像にまとめて、2021年2月6日に和歌山図書館を会場に上映会を行った。会場には多くの空襲体験者の方々も噂を聞きつけ集まってくださり、映像への感想を直接聞いた。また、このような戦後に何があったのかを口承記録として後世に残す、このプロジェクトに賛同し、インタビューに協力したい、という方と多く知り合うことができた。



研究成果発表として行った講演会のチラシ

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

当初計画では、コロナの収束は半年以内と想定した上で、10月以降に多くのインタビューを行うことを予定していた。ところが申請後、第2波、第3波が訪れることとなり、高齢者を中心としたインタビューを行うことが困難となってしまった。しかし、最低限のインタビューと予備調査は行い、上映会で多くの方と本研究の意義について語り合うことができた。特に予備調査については当初の予定よりも十分なデータを得ることができている。よって60%の達成率と判断した。

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性（根拠に基づき記入）

講演会「戦争と空襲、そして戦後混乱期のこと」を開催し、50人以上の参加があった。参加者は、親子で参加し子供にも戦争のことを知ってほしい、という方や、自分自身が空襲体験者の方たちであった。特にその中でも、実際に空襲を体験し、戦災孤児となった女性とも知り合うことができた。厚生省の記録に残る、和歌山の40人の戦災孤児の状況を知る手掛かりになると考える。コロナによって十分にインタビューはできていないが、今後の研究の発展を信じれる状況と考える。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

科研費の基盤（B）に「オーラルヒストリーと数理解析を用いた（全機性）有機的都市形成プロセスの研究」のタイトルで2020年度に申請したが、不採択となった。2021年度のサントリー文化財団の研究助成「学問の未来を拓く」に「研究者によるドキュメンタリー映画製作、歴史研究・都市空間研究の未来を拓く」の研究テーマとして、現在、応募している。2021年7月に結果が届く予定である。また、今年度の夏頃に予定されている科研費にも応募予定である。

○ 学内における成果の活用（予定も含む）

収録映像の一部は、Youtube上に「海防艦艦長と少年の物語」として公開しており、オンライン授業におけるコンテンツとして活用している。また、このようなコンテンツはコロナの収束とともに、ドキュメンタリー映画として完成させて、学内での定期的な上映会に活用し、本学の学生たちに対する学習としたい。また、ある程度、コンテンツとして整備後は、和歌山大学図書館における所蔵なども含めて、学内における研究リソースとして活用できることを検討したい。

○ 学外における成果の活用（予定も含む）

本研究期間に行った講演会が好評だったことを踏まえ、今回収録した映像、また2021年度に行うインタビューなどを加えて、ドキュメンタリー映像として、和歌山の一般市民を対象に上映会を行う。また、その際には一般市民からも感想や意見を聞けるような会とし、その上映会自体が、次の研究へとつながるものとした。また、映像自体は日本各地、海外の映画祭へも出典し、本研究の方向を広く世間に問う形としたい。

○ その他特筆すべき事項

前述したように、本研究は予備調査において、想像を超える進展があった。インタビュー調査対象者の数は大変多くなっている。しかし、コロナ禍によってインタビュー自体を行うことが困難な状況となり、道半ばの研究となっている。ただ、対象者の方々は高齢であり、実際にインタビューを行なった方も、その後、インタビューを行えない状況となっている方もいる。できるだけはやくこの研究を進めないと、今後は二度と得られない口承記録となるので、2021年度もこの研究を進めたい。

【成果の外部公表の方法及び時期】

研究成果は2021年度観光学会「観光学」に投稿する。また、日本オーラル・ヒストリー学会の大会にも応募予定である。

また、すでに2021年度も和歌山県立図書館での上映会も企画中であり、これも成果発表となる予定である。

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。

経費等使用調査								
配分額	500,000 円		支出額	500,000 円		残額	0 円	
経費別内訳対比表								
区 分	配分額				支出額			
	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)
人件費	撮影補助	5	6,000	30,000				
	計			30,000				0
備品費								
	計							0
運営費	旅費	10	10,000	100,000	旅費		57,843	57,843
	補助者旅費	8	10,000	80,000	撮影消耗品		187,494	187,494
	撮影消耗品		150,000	150,000	音響消耗品		76,382	76,382
	HD 費用		100,000	100,000	HD 費用		163,231	163,231
	会場費	1	40,000	40,000	会場費		15,050	15,050
	計			470,000				500,000
合 計			500,000				500,000	